

報道関係各位

株式会社 OKB総研

## 第19回「主婦の消費行動に関するアンケート」結果

OKBグループのシンクタンク株式会社 OKB総研(大垣市郭町2-25 社長 五藤義徳)は、  
 標題のアンケートの結果を取りまとめましたのでご紹介します。

### 《要約》

#### 1. 主婦の景況感は依然として厳しい。

- ・景況感は「良くなった」が3.0%、「悪くなった」が29.7%、「変わらない」が59.7%に。
- ・景況D.I.（「良くなった」－「悪くなった」の回答率の差）は、前回調査（2015年）の▲11.0%ポイントから悪化し、▲26.7%ポイントに。

#### 2. 物価「高くなった」が72.4%

- ・物価は「高くなった」が72.4%、「安くなった」が0.4%、「変わらない」が23.6%に。
- ・物価D.I.（「高くなった」－「安くなった」の回答率の差）は72.0%ポイント。
- ・家計収入が「増えた」と回答した比率が増加したのは30歳代のみ。
- ・家計支出は「増えた」が約6割。「増えた」と「変わらない」を合わせると約9割に。

### 【調査概要】

1. 調査期間：2016年11月8日～11月11日
2. 調査方法：OKB大垣共立銀行本支店（東京・大阪を除く）に来訪した主婦（\*）791名にアンケート用紙を配布・回収（無記名方式）
3. 有効回答者数：775名（有効回答率 98.0%）
4. 回答者属性：

年代	20歳代	7.1%
	30歳代	16.3%
	40歳代	31.1%
	50歳代	28.4%
	60歳以上	17.2%
住所	岐阜県	55.5%
	愛知県	40.9%
	三重県	1.8%
	滋賀県	1.8%
	その他	0.0%
就業形態	専業主婦	13.4%
	正社員・公務員・自営業	44.8%
	パートタイマー	38.8%
	内職・その他	3.0%

（\*）本調査における「主婦」とは、既婚の女性で子どもの有無や就業形態は問わない。

（注）数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある（以下同じ）。

資料配布場所：名古屋金融記者クラブ、大垣市政経済記者クラブ

【本件に関する問合せ先：OKB総研 調査部 陸田 TEL：052-564-1520】

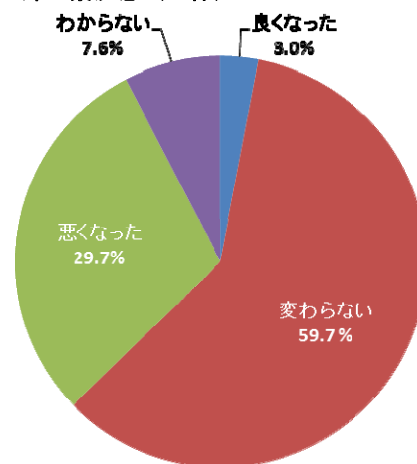
## 1. 主婦の景況感

「現在（2016年）の景気は、1年前と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「良くなった」は全体の3.0%（前年差▲5.6ポイント低下）、「悪くなった」は29.7%（前年差+10.1ポイント上昇）となった（図表1）。

全ての年代・住所・就業形態において、「良くなった」の回答率が減少、「悪くなった」は増加した。また、「変わらない」という回答率が、60歳以上を除く全ての属性において最も多く、景況感は2015年に引き続き厳しい状況だった（図表2）。

景況D.I.（「良くなった」－「悪くなった」の回答率の差）は、前年の▲11.0%ポイントから悪化し、▲26.7%ポイントとなった（図表3）。

図表1：主婦の景況感（全体）

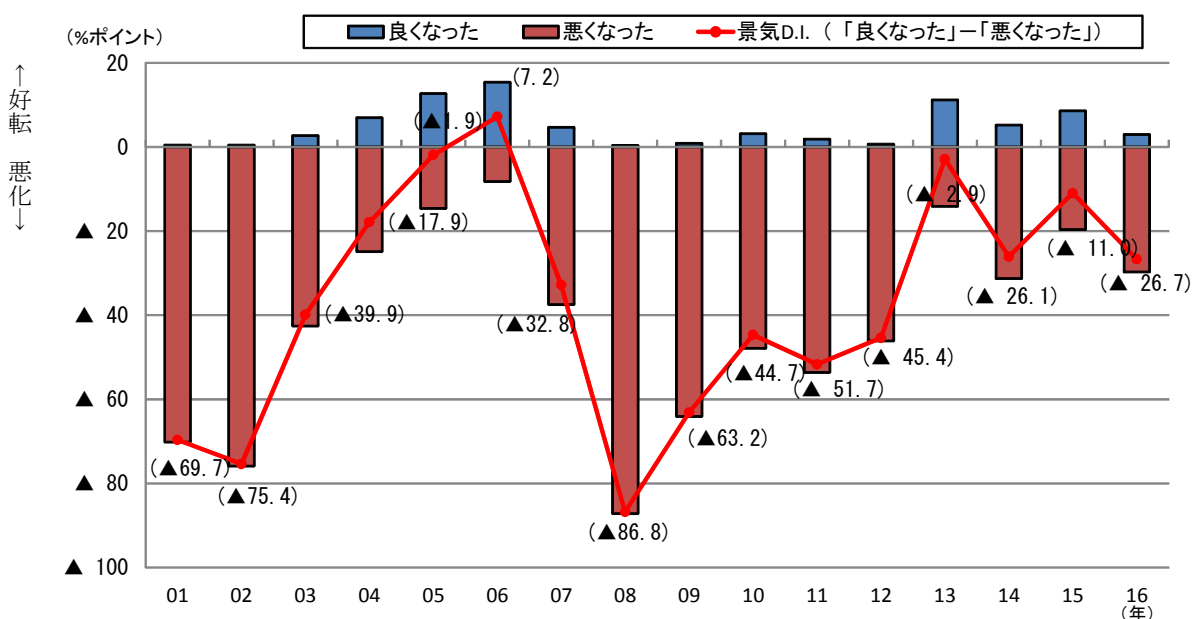


図表2：主婦の景況感（属性別）

	(%)			
	良くなった	変わらない	悪くなった	わからない
全体	3.0 (▲5.6)	59.7 (▲5.6)	29.7 (10.1)	7.6 (1.2)
20歳代	7.3 (▲5.2)	61.8 (▲9.6)	16.4 (5.7)	14.5 (9.1)
30歳代	2.4 (▲5.5)	67.5 (▲2.3)	17.5 (6.4)	12.7 (1.6)
40歳代	2.1 (▲5.3)	68.9 (▲4.8)	23.2 (7.6)	5.8 (2.5)
50歳代	3.2 (▲4.6)	54.3 (▲7.2)	36.5 (11.8)	5.9 (▲0.2)
60歳以上	3.0 (▲8.4)	43.6 (▲5.2)	47.4 (16.5)	6.0 (▲2.9)
岐阜県	2.1 (▲6.1)	63.2 (▲0.7)	29.1 (7.7)	5.6 (▲0.9)
愛知県	4.1 (▲5.6)	55.5 (▲12.2)	30.0 (14.3)	10.4 (3.5)
専業主婦	2.9 (▲9.8)	48.1 (▲8.3)	34.6 (14.6)	14.4 (3.5)
正社員等	3.8 (▲7.0)	59.2 (▲3.2)	30.1 (10.4)	6.9 (▲0.2)
パート	2.3 (▲2.5)	64.1 (▲7.6)	27.6 (8.9)	6.0 (1.2)

(注)括弧内は、前年差を示す。

図表3：主婦の景況D.I.の推移



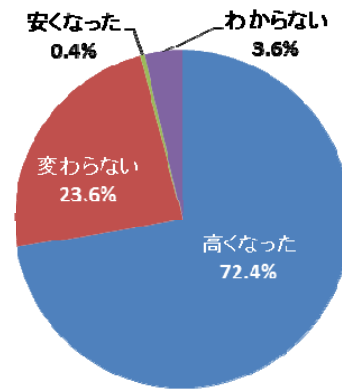
## 2. 主婦の物価観

「現在（2016年）の物価は、1年前と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「高くなった」が全体の72.4%（前年差▲2.5ポイント）、「安くなった」は0.4%（前年差+0.3ポイント）となった（図表4）。

属性別に見ると、30歳代、パートを除いて、「高くなった」の回答率が微減したものの、全ての年代・住所・就業形態において約7割の回答率となった（図表5）。

物価D.I.（「高くなった」－「安くなった」の回答率の差）は72.0%ポイント（前年差▲2.8ポイント）となった（図表6）。

図表4：主婦の物価観（全体）

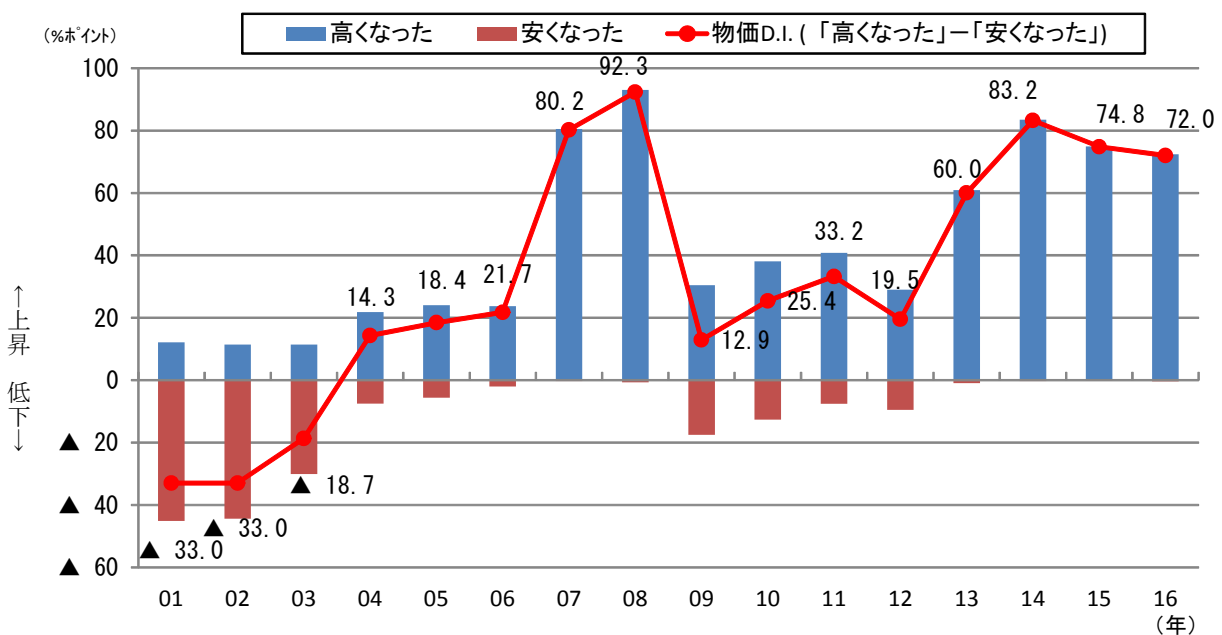


図表5：主婦の物価観（属性別）

	（%）			
	高くなった	変わらない	安くなった	わからない
全体	72.4 (▲2.5)	23.6 (1.0)	0.4 (0.3)	3.6 (1.3)
20歳代	74.5 (▲2.3)	16.4 (▲5.0)	1.8 (1.8)	7.3 (5.5)
30歳代	71.4 (0.8)	24.6 (1.6)	0.0 (0.0)	4.0 (▲2.3)
40歳代	72.6 (▲1.0)	24.9 (0.1)	0.0 (▲0.4)	2.5 (1.3)
50歳代	70.8 (▲2.8)	26.5 (2.3)	0.0 (0.0)	2.7 (0.5)
60歳以上	74.4 (▲9.3)	18.8 (3.4)	1.5 (1.5)	5.3 (4.5)
岐阜県	71.6 (▲1.8)	25.2 (1.6)	0.5 (0.3)	2.8 (0.0)
愛知県	73.5 (▲3.3)	21.5 (0.2)	0.3 (0.3)	4.7 (2.8)
専業主婦	70.2 (▲1.6)	23.1 (3.1)	1.0 (0.1)	5.8 (▲1.5)
正社員等	70.5 (▲3.6)	24.9 (0.8)	0.6 (0.6)	4.0 (2.3)
パート	75.4 (0.0)	22.9 (▲0.3)	0.0 (0.0)	1.7 (0.3)

（注）括弧内は、前年差を示す。

図表6：主婦の物価D.I.の推移



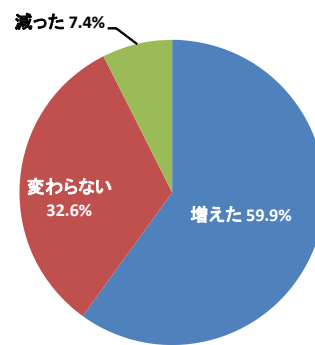
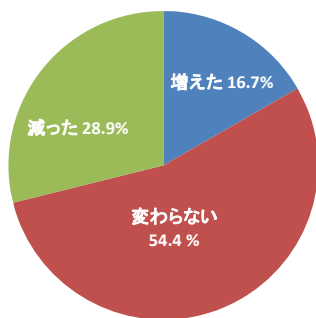
### 3. 家計の収支

「2016年の家計収入は、2015年と比べてどうなりましたか」と尋ねたところ、「増えた」は全体の16.7%（前年差▲0.5ポイント）、「減った」は28.9%（前年差+4.1ポイント）となった（図表7、図表9）。家計支出についても同様に尋ねたところ、「増えた」は全体の59.9%（前年差▲8.0ポイント）、「減った」は全体の7.4%（前年差+3.3ポイント）となった（図表8、図表10）。

年代別にみると、家計収入が「増えた」と回答した比率が増加したのは30歳代のみで、一方、「減った」という回答率は50歳代で3割以上、60歳以上で4割以上に及んだ。また家計支出は、20歳代を除いて「増えた」との回答率が減少したものの、「変わらない」の回答率と合わせると全ての年代で約9割となった。

図表8：家計の支出（全体）

図表7：家計の収入（全体）



図表9：家計の収入（属性別）

	（%）		
	増えた	変わらない	減った
全体	16.7 (▲0.5)	54.4 (▲3.6)	28.9 (4.1)
20歳代	27.8 (▲0.8)	51.9 (▲7.0)	20.4 (7.9)
30歳代	33.1 (2.7)	51.6 (▲4.4)	15.3 (1.7)
40歳代	15.9 (▲1.0)	62.8 (▲3.9)	21.3 (4.8)
50歳代	11.4 (▲0.3)	51.6 (▲3.8)	37.0 (4.1)
60歳以上	6.9 (▲2.9)	47.7 (0.5)	45.4 (2.3)
岐阜県	14.9 (▲0.3)	55.0 (▲4.7)	30.2 (5.0)
愛知県	19.7 (▲0.4)	53.2 (▲3.1)	27.1 (3.5)
専業主婦	20.8 (▲0.1)	43.6 (▲4.6)	35.6 (4.7)
正社員等	19.0 (▲0.7)	53.6 (▲3.5)	27.4 (4.3)
パート	12.4 (▲2.3)	59.9 (▲1.3)	27.8 (3.7)

（注）括弧内は、前年差を示す。

図表10：家計の支出（属性別）

	（%）		
	増えた	変わらない	減った
全体	59.9 (▲8.0)	32.6 (4.6)	7.4 (3.3)
20歳代	75.9 (11.6)	20.4 (▲15.3)	3.7 (3.7)
30歳代	64.0 (▲13.6)	32.0 (11.2)	4.0 (2.4)
40歳代	66.5 (▲8.7)	27.6 (6.1)	5.9 (2.6)
50歳代	52.3 (▲6.4)	37.7 (2.9)	10.0 (3.5)
60歳以上	50.4 (▲12.2)	38.9 (7.2)	10.7 (5.0)
岐阜県	60.5 (▲7.6)	32.7 (6.0)	6.8 (1.6)
愛知県	58.9 (▲8.7)	33.2 (3.6)	7.9 (5.1)
専業主婦	61.8 (▲8.8)	30.4 (3.8)	7.8 (5.0)
正社員等	59.0 (▲6.2)	31.7 (0.6)	9.3 (5.5)
パート	60.3 (▲8.3)	34.3 (7.7)	5.3 (0.5)

（注）括弧内は、前年差を示す。

## 4. 家計支出の動向

### (1) 支出が増えた費目

「2016年の家計支出を考えたとき、2015年より支出が増えた費目は何ですか（あてはまるもの全て選択）」と尋ねたところ、「食費」（53.2%）がトップとなり、ついで「教育費」（27.4%）、「交通・通信費」（25.0%）となった（図表11）。属性別にみると、子どもが大きくなる40歳代で「教育費」が増えたとの回答率が56.6%にも及び、家計に大きな影響を与えていることが分かる。また、全体の水準をみると、支出が増えたという費目の回答率が減少傾向にあり、様々な費目において支出を抑制していることがうかがえた。

支出が増えた上位7費目の推移をみると、2016年は長雨や台風等による野菜の高値が家計を直撃したためか、「食費」がトップとなった（図表12）。

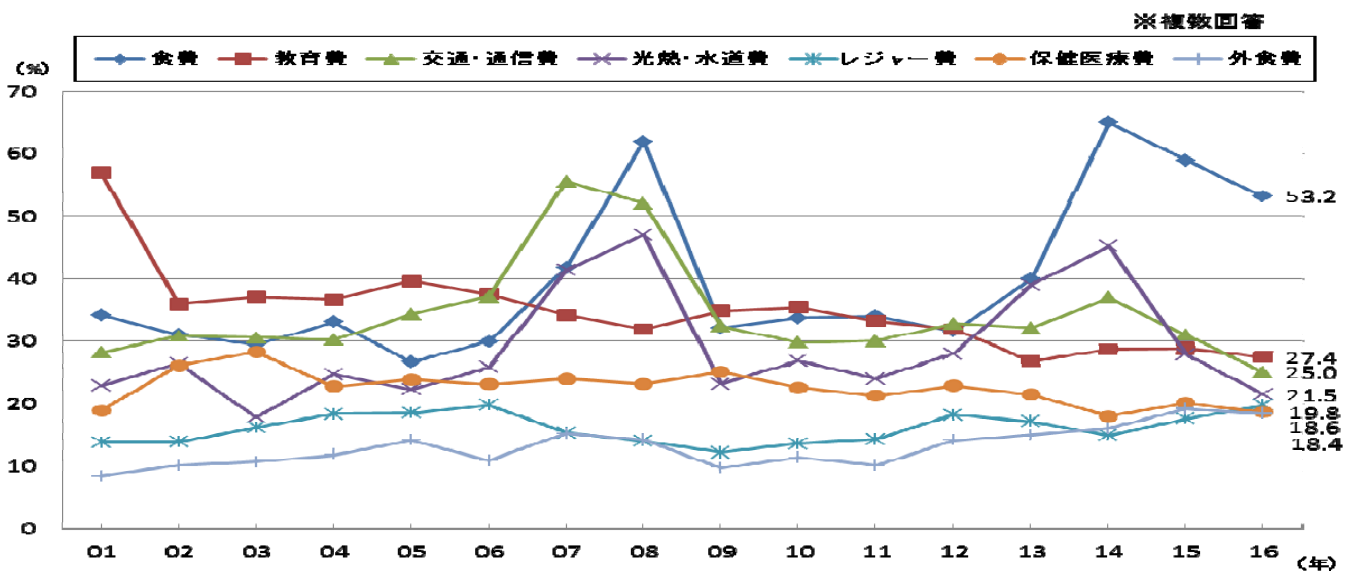
図表11：支出が増えた上位7費目（属性別）

	※複数回答 (%)						
	食費	教育費	交通・通信費	光熱・水道費	レジャー費	保健医療費	外食費
全体	53.2 (▲ 5.7)	27.4 (▲ 1.4)	25.0 (▲ 6.0)	21.5 (▲ 6.3)	19.8 (2.2)	18.6 (▲ 1.5)	18.4 (▲ 0.8)
20歳代	67.9 (▲ 1.7)	3.8 (▲ 6.9)	11.3 (▲ 19.1)	20.8 (▲ 4.2)	17.0 (▲ 6.2)	1.9 (▲ 12.4)	17.0 (▲ 13.4)
30歳代	64.0 (▲ 4.6)	37.6 (▲ 5.4)	24.0 (▲ 0.8)	17.6 (▲ 8.8)	22.4 (▲ 1.6)	13.6 (2.9)	23.2 (▲ 0.8)
40歳代	54.5 (▲ 1.0)	56.6 (▲ 0.1)	23.8 (▲ 10.2)	19.6 (▲ 7.3)	14.0 (3.5)	14.9 (1.0)	12.3 (▲ 2.8)
50歳代	43.7 (▲ 9.7)	10.2 (▲ 0.1)	28.4 (▲ 8.8)	23.3 (▲ 6.7)	22.8 (2.6)	21.9 (1.3)	20.0 (2.1)
60歳以上	50.0 (▲ 11.0)	1.6 (▲ 0.1)	28.2 (8.7)	26.6 (▲ 1.4)	24.2 (6.4)	32.3 (▲ 11.8)	22.6 (3.1)
岐阜県	50.5 (▲ 10.4)	27.9 (▲ 3.4)	23.8 (▲ 8.9)	20.6 (▲ 8.0)	16.7 (0.2)	18.7 (▲ 1.3)	15.8 (▲ 1.4)
愛知県	56.7 (0.5)	26.6 (1.1)	25.6 (▲ 3.2)	23.7 (▲ 3.1)	23.4 (4.4)	17.9 (▲ 1.4)	21.8 (▲ 0.4)
専業主婦	58.2 (▲ 11.2)	18.4 (▲ 2.9)	23.5 (1.3)	25.5 (▲ 10.6)	24.5 (6.0)	23.5 (▲ 6.1)	22.4 (8.5)
正社員等	52.1 (▲ 5.8)	24.0 (1.5)	24.0 (▲ 3.1)	22.2 (▲ 4.6)	20.1 (1.9)	18.3 (1.5)	17.7 (▲ 7.7)
パート	53.2 (▲ 3.9)	34.0 (▲ 2.6)	26.3 (▲ 10.9)	19.2 (▲ 7.0)	18.5 (2.1)	16.8 (▲ 2.2)	17.5 (2.5)

(注1) 網掛けは、各属性における最も回答率の高い費目。

(注2) 括弧内は、前年差を示す。

図表12：支出が増えた上位7費目（全体）の推移



## (2) 支出が減った費目

「2016年の家計支出を考えたとき、2015年より支出が減った費目は何ですか（あてはまるもの全て選択）」と尋ねたところ、「レジャー費」(31.4%)がトップとなり、ついで「衣料費」(24.4%)、「外食費」(24.1%)となった(図表13)。

支出が減った上位7費目の推移をみると、上位3費目は2002年から順位の変動はあるものの変わっていない。また上位3費目の水準をみると、いずれも2年連続で減少している(図表14)。

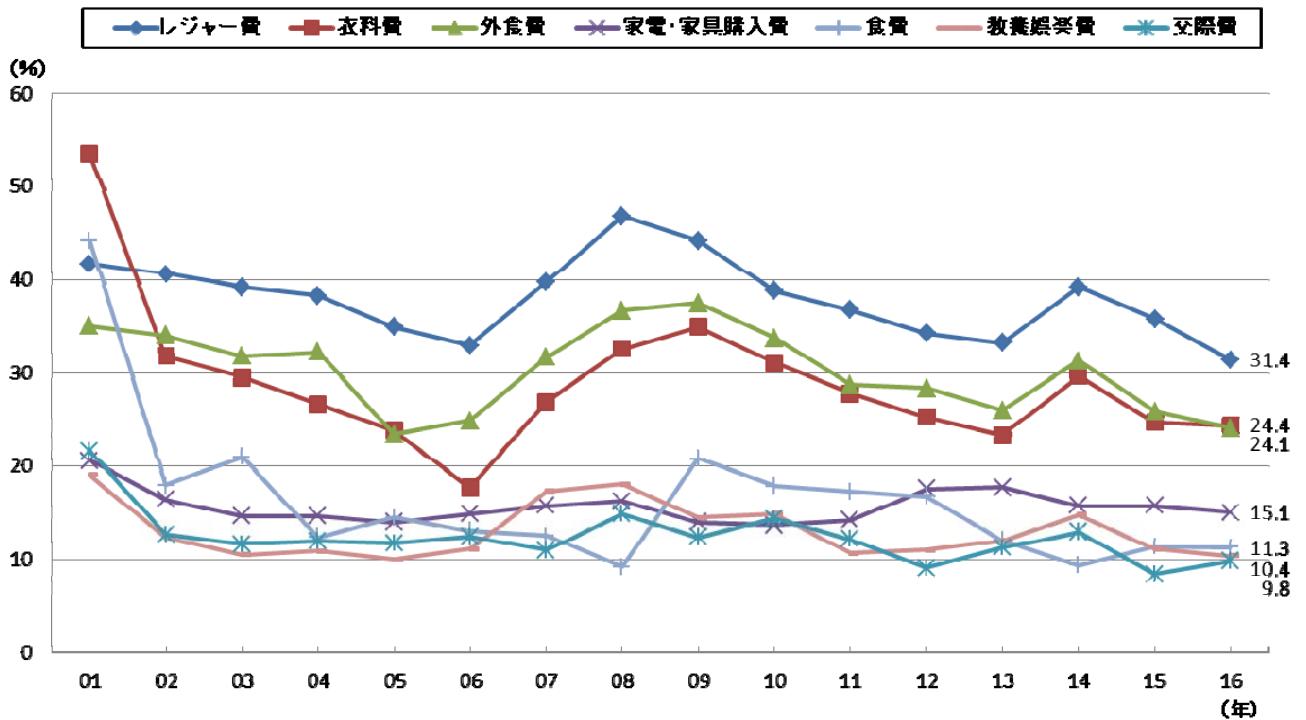
図表13：支出が減った上位7費目（属性別）

	※複数回答 (%)						
	レジャー費	衣料費	外食費	家電・家具購入費	食費	教養娯楽費	交際費
全体	31.4 (▲4.4)	24.4 (▲0.3)	24.1 (▲1.8)	15.1 (▲0.7)	11.3 (▲0.1)	10.4 (▲0.7)	9.8 (1.4)
20歳代	22.7 (▲0.8)	18.2 (▲9.3)	22.7 (▲2.8)	13.6 (▲8.0)	9.1 (3.2)	11.4 (3.6)	20.5 (12.7)
30歳代	32.4 (▲6.9)	15.7 (▲2.3)	22.5 (4.5)	19.6 (2.7)	7.8 (▲0.1)	6.9 (▲4.3)	5.9 (▲3.1)
40歳代	35.6 (▲10.3)	19.8 (▲0.1)	28.7 (4.2)	14.9 (1.1)	9.4 (▲3.4)	11.4 (▲0.3)	8.9 (▲0.8)
50歳代	28.6 (▲2.6)	29.7 (4.0)	19.3 (▲11.9)	13.5 (▲1.4)	14.6 (2.2)	9.4 (1.0)	9.4 (3.0)
60歳以上	30.8 (3.1)	34.6 (▲2.6)	26.0 (0.5)	14.4 (▲3.7)	13.5 (0.7)	13.5 (▲3.5)	11.5 (1.9)
岐阜県	34.3 (▲2.3)	23.1 (▲2.3)	27.5 (▲1.2)	13.2 (▲3.4)	12.1 (1.4)	10.4 (▲0.9)	7.1 (▲1.6)
愛知県	28.2 (▲6.3)	26.3 (3.0)	18.9 (▲2.0)	17.0 (0.9)	10.4 (▲2.9)	9.3 (▲2.3)	13.1 (5.1)
専業主婦	24.4 (▲13.4)	24.4 (▲8.5)	24.4 (▲3.6)	14.0 (0.6)	10.5 (0.7)	8.1 (▲0.4)	10.5 (4.4)
正社員等	33.6 (4.8)	24.6 (0.9)	21.8 (▲3.2)	16.8 (▲0.6)	10.4 (▲1.9)	10.4 (▲2.3)	10.7 (1.4)
パート	28.7 (▲12.3)	24.8 (2.4)	27.1 (0.0)	14.3 (▲1.6)	12.0 (0.8)	11.2 (0.0)	8.1 (0.0)

(注1) 網掛けは、各属性における最も回答率の高い費目。

(注2) 括弧内は、前年差を示す。

図表14：支出が減った上位7費目（全体）の推移



### (3) 高額商品の購入について

2016年に1商品10万円以上する高額商品の購入について質問し、「購入した」と回答した人に「具体的にどんなお買物をしましたか」と尋ねたところ、「一般家電」が全体の35.1%と最も多く、ついで「国内旅行」(32.3%)、「自動車の購入・維持」(28.0%)となった(図表15)。

2016年は国内で多発した地震などを背景として、国内旅行を控える傾向がみられた。こうした点が、前回最多であった「国内旅行」の回答率の低下につながったと思われる。また、リオ五輪に向けた高画質テレビをはじめとする、高付加価値製品を中心とした更新需要などにより、「一般家電」が最多になったものとみられる(図表16)。

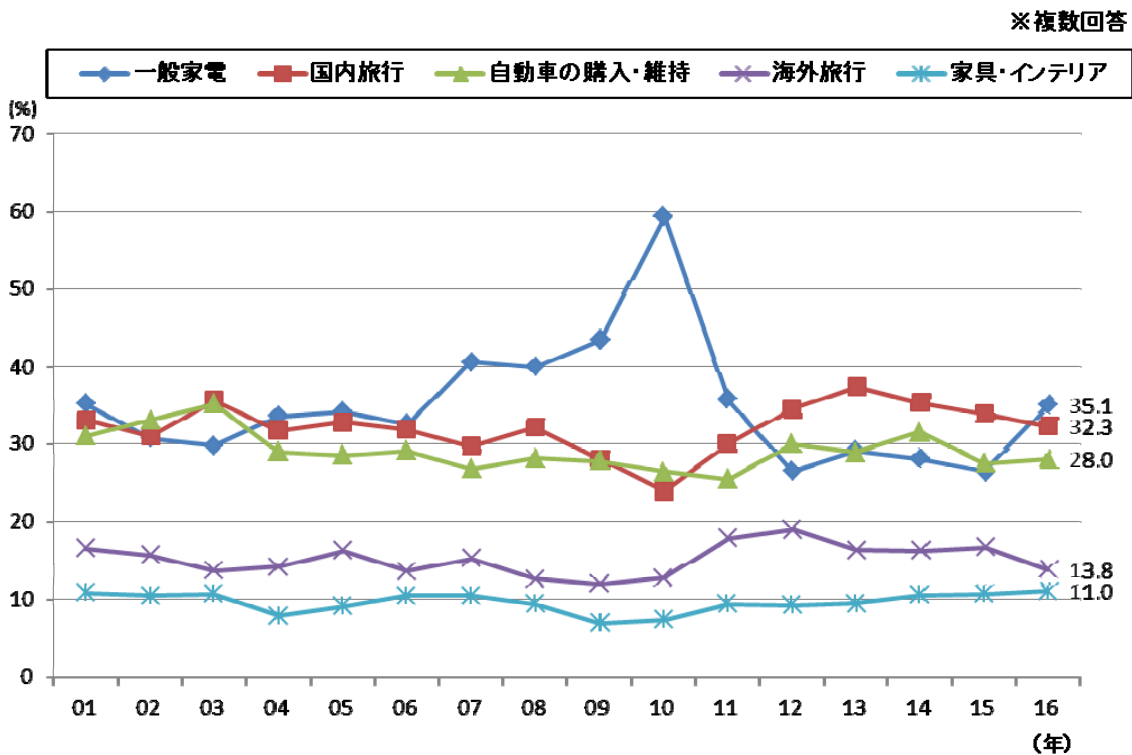
図表15：購入した高額商品（上位5品目）（属性別）

	※複数回答 (%)				
	一般家電	国内旅行	自動車の購入・維持	海外旅行	家具・インテリア
全体	35.1 (8.7)	32.3 (▲1.6)	28.0 (0.5)	13.8 (▲2.9)	11.0 (0.4)
20歳代	44.4 (11.1)	11.1 (▲1.7)	25.9 (2.8)	25.9 (▲15.1)	37.0 (11.4)
30歳代	29.3 (7.9)	37.3 (▲7.0)	29.3 (5.0)	17.3 (3.0)	14.7 (▲1.0)
40歳代	34.8 (3.9)	37.9 (▲0.9)	33.3 (3.1)	6.1 (▲0.4)	6.1 (▲1.8)
50歳代	35.1 (10.1)	27.5 (▲2.4)	22.1 (▲9.2)	14.5 (▲6.3)	9.9 (4.3)
60歳以上	38.0 (17.0)	33.8 (▲0.1)	28.2 (8.8)	18.3 (0.6)	8.5 (▲4.4)
岐阜県	36.1 (6.3)	31.5 (▲2.8)	27.3 (▲4.6)	9.7 (▲2.8)	7.4 (▲2.3)
愛知県	33.8 (10.6)	34.3 (1.7)	27.9 (6.3)	18.6 (▲3.5)	15.7 (4.1)
専業主婦	34.5 (6.6)	36.4 (▲4.8)	34.5 (11.0)	12.7 (▲2.0)	10.9 (▲5.3)
正社員等	35.7 (11.5)	31.0 (▲0.2)	27.6 (3.4)	18.1 (▲3.4)	14.3 (2.5)
パート	34.2 (5.4)	33.5 (▲1.3)	25.9 (▲7.8)	8.9 (▲4.1)	6.3 (▲1.9)

(注1) 網掛けは、各属性における最も回答率の高い費目。

(注2) 括弧内は、前年差を示す。

図表16：購入した高額商品（上位5品目）（全体）の推移



## 5. 主婦の買物場所

主婦は実際にどこで買物しているのか。図表 17 は、主婦の買物場所（11 業態）の利用頻度を 1 年間の平均利用回数に換算したものである。

主婦が最もよく利用する店は従来どおり「スーパー」で、およそ 2.4 日に 1 度（1 年間に 155.0 回）の頻度で利用されている。ついで、「コンビニエンスストア」（4.9 日に 1 度）「ドラッグストア」（7.6 日に 1 度）の利用が多かった。

特記すべきは、全ての年代、住所、就業形態において、「コンビニエンスストア」の利用が増加し、前年は 5.7 日に 1 度の利用であったが、今回は 4.9 日に 1 度となったことである。定価販売のコンビニエンスストアは、価格にシビアな主婦からは避けられやすい点はあるが、近年は価格を抑えた PB 商品の品揃えを増やしたり、安価なコーヒーなどの新商品を扱うようになってきた。また商品購入以外でも、ATM の利用、公共料金などの支払い、宅配便の発送、通信販売・ネットショッピングの支払いなど、消費者の多様なニーズを取り込んで、様々なサービスを展開しており、その利便性が主婦にも支持されたのではないかと思われる。

図表 17：買物場所の年間平均利用回数

(単位「利用頻度」を除く)：回/年

	スーパー	コンビニエンスストア	ドラッグストア	複合型SC	ディスカウントストア	100円ショップ	ホームセンター	通信販売	商店街	百貨店	家電量販店
全体	155.0 (4.5)	74.0 (9.4)	47.8 (1.9)	23.6 (▲0.5)	20.1 (2.9)	18.0 (3.2)	15.6 (▲0.5)	12.1 (1.4)	8.0 (1.0)	5.9 (0.2)	4.3 (0.5)
20歳代	124.4 (▲0.6)	71.8 (35.9)	49.1 (9.2)	22.7 (▲4.5)	23.5 (0.9)	23.0 (10.6)	11.4 (1.6)	22.3 (3.2)	2.7 (0.0)	5.4 (▲0.1)	3.6 (▲1.0)
30歳代	117.8 (▲17.9)	78.9 (6.0)	53.2 (2.7)	30.5 (1.6)	21.0 (4.1)	17.5 (0.1)	12.3 (▲0.8)	18.5 (▲0.4)	3.4 (1.0)	4.4 (1.4)	5.1 (1.5)
40歳代	159.2 (14.2)	79.3 (10.9)	48.9 (4.9)	24.4 (3.6)	22.1 (5.0)	15.9 (0.3)	14.9 (1.4)	8.6 (1.0)	3.4 (1.7)	4.5 (▲1.2)	3.7 (▲0.5)
50歳代	173.3 (8.3)	62.0 (1.1)	47.7 (▲3.3)	20.5 (▲3.3)	18.1 (0.7)	16.6 (2.6)	16.9 (▲0.5)	9.6 (▲0.1)	8.7 (0.2)	5.8 (▲0.2)	4.1 (0.5)
60歳以上	165.7 (5.8)	58.5 (13.8)	39.8 (1.6)	20.0 (▲3.3)	16.8 (2.5)	21.8 (9.0)	19.4 (▲5.6)	11.8 (6.4)	22.2 (▲1.5)	10.5 (1.7)	6.0 (2.6)
岐阜県	148.3 (5.1)	74.8 (14.9)	51.7 (0.9)	22.1 (▲1.9)	22.9 (2.0)	16.9 (3.1)	15.9 (▲0.6)	12.0 (2.3)	11.2 (3.5)	4.7 (0.7)	4.1 (0.3)
愛知県	161.8 (1.0)	72.4 (0.1)	43.1 (3.2)	26.2 (1.3)	15.8 (3.3)	19.2 (4.0)	14.7 (▲0.9)	11.8 (▲0.7)	3.7 (▲2.4)	7.7 (▲0.5)	4.8 (0.9)
専業主婦	150.4 (2.3)	61.1 (10.3)	47.2 (▲3.1)	28.5 (▲6.9)	16.6 (1.2)	18.5 (3.0)	16.8 (3.6)	9.3 (▲2.5)	15.6 (7.3)	5.9 (1.3)	4.1 (0.2)
正社員等	144.5 (1.8)	89.9 (11.6)	45.6 (0.4)	23.6 (2.6)	18.1 (0.6)	16.3 (3.6)	14.3 (▲4.0)	15.0 (▲0.5)	9.9 (2.1)	6.2 (▲0.1)	3.7 (0.4)
パート	172.8 (15.4)	58.4 (0.9)	50.2 (3.7)	21.6 (▲1.6)	22.9 (5.1)	18.2 (1.8)	16.8 (2.0)	10.4 (3.8)	2.8 (▲2.0)	5.3 (▲0.3)	4.2 (0.1)
利用頻度 (注1)	2.4 (0.0)	4.9 (▲0.8)	7.6 (▲0.4)	15.5 (0.3)	18.2 (▲3.0)	20.3 (▲4.4)	23.5 (0.8)	30.3 (▲3.9)	45.6 (▲6.2)	62.3 (▲1.6)	85.4 (▲10.9)

(注1)「利用頻度」とは、「全体」において、それぞれの業態に訪れる間隔を日数単位で表したものを示す。スーパーであれば24日に1回利用するとの意味。

(注2)括弧の中の数字は、前年利用回数および前年利用頻度との差を示す。

以上